第7章　酸性雨調査結果

酸性雨とは、硫黄酸化物や窒素酸化物等の大気汚染物質の影響により、雨水のpH（水素イオン濃度指数）が5.6以下となった雨である。酸性雨は、欧米を中心に土壌や河川、湖沼の酸性化による生態系の変化、森林の衰退等の問題を引き起こしている。

本県では、衛生環境研究センターの調査研究として、県下における酸性雨の実態を把握し、発生メカニズムを解明することを目的に昭和60年度にろ過式採取法による酸性雨調査を開始し、平成25年度からは降水時開放型捕集装置法による酸性雨調査を実施している。

〈調査地点〉

調査地点：大分市（衛生環境研究センター）

〈調査方法〉

降水時開放型捕集装置法により、1週間ごとの降水を採取し、湿性沈着物のpHを測定する。

〈調査結果〉

平成26～30年度の雨水のpH（年平均値）の調査結果を図7-1に示す。

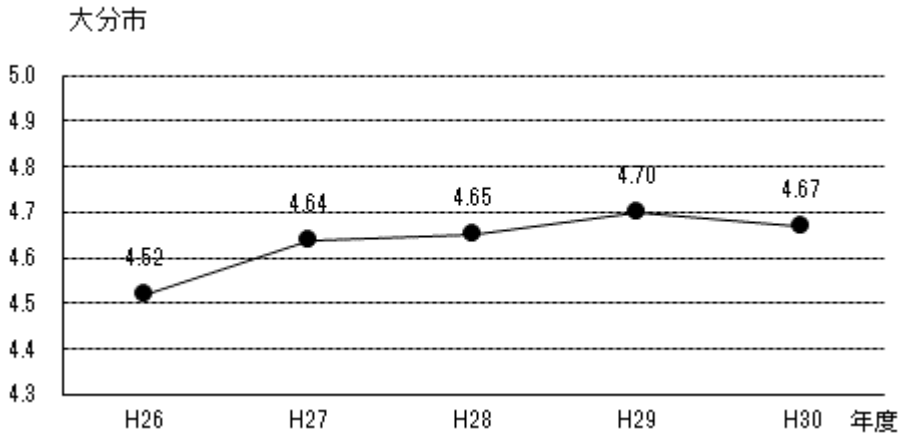

図7-1　　雨水のｐＨの年平均値の経年変化